

## 令和4年度第2回 岐阜市立女子短期大学運営委員会報告書

- 1 日 時 令和4年12月20日（火）10時00分～11時50分
- 2 場 所 岐阜市立女子短期大学 大会議室
- 3 出席者 （1）外部委員（1号委員）出席4名  
池田委員、石黒委員、臼井委員、馬場委員  
（2）学内委員（2号委員）出席4名  
畑中学長、服部副学長、道家附属図書館長、久米事務局長
- 4 次 第 （1）2023年度入学者選抜状況について  
（2）地域連携センターの取組について  
（3）データ駆動科学教育研究センター（仮称）について  
（4）ぎふ地域創発人材育成プログラム（SPARC事業）について  
（5）短期大学を取り巻く状況について  
（6）本学の中長期の展望について

### 5 委員の意見

#### ○意見1

新しい学習指導要領となり、再来年度から共通テストの必須科目になる「情報」科目の及ぼす影響を注視している。データ駆動科学教育研究センターを設立するとの説明があったが、生徒の知識、考え方が今とは変わってくることも予想されるため、そういった点も考慮してもらいたい。

#### ○意見2

18歳人口が減少するなか、短期に専門的な知識を修得できる短期大学は、高校生の進学先としてだけでなく、資格取得講座を開講するなど、地域住民の学習意欲に応えられる存在であってもらいたい。

#### ○意見3

経済的に困窮している高校生の進学先として短期大学部を残していくことは必要だと考える。

#### ○意見4

定例の授業のほかに、防災食や伝統食など特定の分野に特化した講座を開設すると、学生の視野が広がり、将来の職業選択のきっかけづくりとなるのではないか。

#### ○意見5

社会情勢からみて求められているのは短期大学ではなく4年制大学だと思われる。ただ、短期大学の4年制大学化の事例の中には成功例もあれば失敗例もあり、4年制大学化するにあたり重要なのは、近隣大学と学びの内容が重複しないようにすること、目玉となる学問分野を設立すること、魅力ある資格取得が目指せることだと考える。